

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度 第1回 所沢市行政経営推進委員会
開 催 日 時	平成28年9月27日(火) 午後6時00分から午後7時40分まで
開 催 場 所	市役所高層棟3階 301会議室
出席者の氏名	石川久、植村尚史、加藤且行、河上高廣、瀧澤幸子
欠席者の氏名	大島千代美、中町綾子、新井康夫
説明者の職・氏名	
議 題	(1) 所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について (2) その他
会 議 資 料	○議事(1) 資料1 「所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進について 資料2-①「重点プロジェクト」進行管理表 資料2-②「戦略方針」進行管理表 資料3 「ご意見及び市の考え方(一覧)」 冊子 「所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」
担 当 部 課 名	経営企画部長 三上 昌美、経営企画部次長 粕谷 信由、 経営企画課長 鈴木 哲也、経営企画課主幹 磯 稔、 経営企画課主幹 市川 勝也、経営企画課副主幹 大出 久美、 経営企画課主査 草薨 秀夫 経営企画部経営企画課 電話 04(2998)9027

様式第2号

審議の内容（審議経過・決定事項等）	
<p>(1) 所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について</p> <p>(2) その他</p>	
発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	事務局の進行により開会。
	<p>本日は、新井委員、大島委員、中町委員が欠席である。新井委員におかれましては、山下委員の退任に伴い、平成28年4月1日より代わったものである。会議は原則公開とし、会議録の作成は要約方式、会議録は、事務局が作成した案を各委員に確認し承認いただいた後に確定する。</p>
委員長	<p>以降、委員長により議事を進行。</p> <p>(1) 所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について資料に従い説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>資料1「所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進について、資料を基に説明。</p>
委員長	<p>ここで、委員の方から何かご質問等があればお願いしたい。</p>
副委員長	<p>まず、この委員会に何を求めているかを確認したい。効果検証というと、総合戦略を作って全て行われて、目指すものが実現できなかった、とすれば戦略自体がだめだったとわかる。総合戦略自体の検証なのか？ そうだとするならば、余りにも材料が少なすぎる。事前の資料の例示だと、それぞれ項目に対する評価しかない。</p> <p>また、評価には物差しがないと検証ができない。行政の事務事業評価は、各事業に目標を定め、これに届いたかどうかを評価するものであり、届かなかった場合は何が足りなかったのかを検証するものである。今回は、この様な評価をすることしかできない資料となっているが、委員会に求められているものは、個々の事業の評価をしてほしいということか？</p>
事務局	<p>委員会による検証は、総合戦略に定めた個々の事業が目標を達成できたかどうかについて評価していただきたい。今回の評価方法</p>

	<p>(KPI) は、国より示された手法に従ったものであり、定量的なものを示すことで評価となると考えた。KPI が達成できたからと言って、本当の意味での総合戦略の目指すべきところを達成できたかを図る物差しとしては合致していない部分もあることは認識している。</p> <p>委員会としては、まちの魅力がアップされたか？まちの元気がアップされたか？についてご意見をいただければと思っているが、定量的な達成度についても、市の作業としては示していかないとならないので、この様な方法により評価をお願いしたものである。</p> <p>したがって、今日の会議では、施策の方向性が誤っている、などご意見があれば、PDCA の考え方に基づき、総合戦略の自体の内容を見直していくことも考えられる。</p>
副委員長	<p>まちが元気になっているかなど、データがないので評価のしようがない。個々の事業の目標が達成されたかどうかは資料を見ればわかるので、これを評価しろと言うのであれば、評価はし易いので、その要因を探ることも可能と思われるが、もっと大きく全体を評価するとなるとこの資料では難しい。</p>
事務局	<p>どの様なものを具体的に示していけば、総合戦略の中で目標としているものが達成されたか評価をしてもらえるのか、試行錯誤しながら進めているので、委員の皆様から指標等についてもアドバイスを頂きたい。まずは、国が示した手法を参考に進めたものである。</p>
委員長	<p>この戦略は国主導なので、「国がこの評価手法を求めている」とはっきり言った方がよいのではないか。国は、この時期までに、この様な意見を求めているので、手法については仕方がない部分もあると思う。</p>
事務局	<p>国より交付金を受けている部分もあり、国から求められる指標に基づき報告しなければならないところもあるが、国から言われたことだけではなく、そこから少しでもより良いものを得たいとの思いもある。副委員長の発言の通り、個別事業の目標を達成したからと言って総合戦略の目標の達成度に対する評価は難しいと思う。しかしながら、様々な視点から目標を掲げているので、個々の評価を通じて全体像が漠然とでも見ることができると思うので、それらを皆様の専門分野の目で見えていただき、個々の事業の方向性が妥当か否</p>

	<p>かの意見を頂けるとありがたい。</p>
委員長	<p>他に意見がなければ、2資料2-①「重点プロジェクト」進行管理表、資料2-②「戦略方針」進行管理表について事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>資料2-①「重点プロジェクト」進行管理表、資料2-②「戦略方針」進行管理表について説明。</p>
副委員長	<p>指標の立て方であるが、一つはどこまでやったかの指標と、もう一つはどのような影響があったか見る指標の二つがあるが、今回は後者の方になると思う。達成度を目標に対して何%達したかでは意味がなく、ベクトルが向いている（上がっている）かが大事である。実績が下がっている又は横ばいで、実態は後退している可能性があるのに、目標に対して75%に達していることだけで、機械的に事業の効果があると言うのはおかしい。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおりである。この指標は交付金を受けていることから、国の指示に従い、示さないといけない内容であるが、評価上の表記とは別に、事業の進捗管理の視点から何らかの対応・説明は必要と考える。</p>
副委員長	<p>このことは、今後、市民や議会に説明する際に必要となる視点である。</p>
事務局	<p>個々の項目でどのような基準で表記されているかの説明が必要である。数値が下がっていても75%を切らずに減少の範囲の中にある事業についても、しっかりと対策を打つ必要があると感じている。今は示せないが、この表とは別の形での取り組み方があると考えている。</p>
委員長	<p>この進行表はどこかに提出するものなのか？</p>
事務局	<p>様式は異なるが、国の交付金の関係で報告する内容を取り込んでいる。全部ではないが、児童クラブの施設及びサービス、保育環境に係る満足度や、児童クラブ・児童館・生活クラブの利用料の助成件数など、交付金を受けていることから、国に報告を行ったところ</p>

	<p>である。国の様式に基づく選択肢では当てはまらないものもあったが、報告の関係からやむを得ず選択した経緯もある。今年の評価の初年度であり、ベクトルが上を向いているのかも分からないものもあり、国の指示に従い、75%以上は効果があると記載しているが、次年度以降は上がっているのかわかるので、そこからはしっかりとした評価ができるものとする。</p>
副委員長	<p>選択肢として、「どちらとも言えない」という選択は可能か？</p>
事務局	<p>国への報告が必要なものは難しいが、それ以外のものは工夫をしたいと考える。</p>
委員長	<p>国に提出するものは国の表記に従って書くが、市の見解をコメントに書くことも考えられる。国では75%で地方創生に相当程度の効果があったという評価になってしまうが、この違和感に対して、国で統一され表記のルールが75%以上になったものは「相当程度の効果があった」となっており記載したなどの説明を入れることが必要と思う。また、市の意見として、課題や対応策も考えているなどコメントを添えることも必要と考える。</p>
事務局	<p>コメントを添えるなど工夫をしていきたい。</p>
委員	<p>目標値の捉え方で大きく異なる。無理に高い数値を掲げてしまうことで達成できないものもある。事業が実のあるものになって欲しい。中心市街地の活性化については、商業者自身が実力をつけることを支援することが重要で、静岡県呉服町の“一店逸品運動”の例などを参考に、取り組んでいかないといけないと思う。また市街地再開発事業などについては、早い時期から商業者に入ってもらい話をしていかないと上手く行かないケースを多く見ているので、意見として書いた。</p>
委員長	<p>他に意見がなければ、資料3「ご意見及び市の考え方（一覧）」について事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>資料3「ご意見及び市の考え方（一覧）」について説明。</p>
委員	<p>昨年度より委員に就任したが、昨年度は計画策定ということで、</p>

	<p>PLAN にしか参加していない。効果検証と言うことは、PDCA の CHECK の部分で、私は DO に関係していないことから検証の意見を出せなかった。今日の事務局説明を聞いて、効果検証とは目標と実績を検証することであることが分かった。また、今回の意見は国に提出すために出した意見で、本当に所沢市の為に出した意見でないことを把握した。委員の意見で感じたことは、資料 3 の 15・16 番目の若年層人口に占める転出数の割合についてだが、転出した人の理由を追跡調査することが改善の役に立つと思う。</p> <p>もう少し、所沢として考えた内容が必要と思う。国の効果検証に拘る必要はない。国の考えは変わるものである。所沢の将来を考えた時に、何が重要か調べることが大事である。特に大切な子育て世代、稼働世帯が所沢から減っていくことは、所沢の将来が低下していくことを意味しているので、その事が本当に重要だと思うのであれば、なぜ減少しているのか理由を調べることが大事である。一方で増えている所もあるので、マンションを買う人など、人口が増える理由についても調べることで、所沢市として何が必要で、何ができるかが見えてくると思う。</p> <p>2 点ある。1 点目は、重点プロジェクトについては、27 年度から 5 年かけて始まったところで、第 3 者としては見守るべきと考え意見を付けなかった。2 点目は、戦略方針については、各部署が取り組む部分が多く、部署によっては形式的に行っている部署や、根本的な部分を見据えて実施している部署もあり、温度差があると思う。各部署が問題意識をもって、意思統一を図りながら進めないといけないと感じた。</p> <p>中心市街地の活性化では、補助金が無くなった途端、やらなくなるところもあり、もったいない。商工会議所青年部など一部の人の努力だけでは継続することは大変で、顎が上がってしまう。継続する秘訣は、関与する人を増やすことである。他市で長く続いている事業について話を聞きに行くことも有意義である。また、資料 3 の No. 14 新規開業支援推進事業については、日本政策金融公庫が手引を作成しており様々な地域で支援しているが、市内の事業者だけに頼っていては難しいので、他市の事業者と連携をしながら支援事業を進めて行くことも有効な取組みと考える。「創業するなら足立区で」といった取組みも参考にされたい。</p>
副委員長	
委員	
委員	

<p>委員長</p>	<p>指標の設定であるが、市が努力して効果が現れるものと、そうでないものが混在している。例として、犯罪の認知件数は警察が把握するものだが、見えてないところもある。警察が把握できず件数は少なくとも市民の不安が解消できない街もある。交通事故の件数は、事故の多いところを改善するなど市の努力によって減ることも考えられるが、増える可能性もある。市として何をしたか、その取り組みが十分できたかどうかを指標として設定する方が望ましい。市が関与できる、コントロールできる数値を採用することが必要である。</p>
<p>委員</p>	<p>マンションの管理組合で管理費と町内会費を一緒に回収することは違法とされて、「自治会・町内会」への加入促進などへの逆風となる要素もある。</p>
<p>委員長</p>	<p>各員から意見があったが、これらの意見を参考に、事務局として今後の効果検証の在り方を検討して欲しい。 他に意見がなければ、（２）その他 について何かあれば事務局よりお願いしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回の会議日程は、１１月の第１週を予定している。主な内容としては、第５次所沢市行政改革大綱の総括について意見を伺いたいと考えている。</p> <p>議事終了。</p>